

# Fukuro

## 第3号

### 1. 3年生 修学旅行

修学旅行に向けて、けやきこぶし学級では、事前に予定や持ち物を何度も細かく確認し準備をしました。

また、公共の場で一般の方と接する場面が多く想定されるため、こぶし学級の道徳の時間には、「身近な生活の中で配慮したい事」という教材を使って事前学習を行いました。生徒たちは、階段の上り下りの時の傘の先の危険性や、キャスター付きのキャリーケースがエスカレーターで落下する事故があるということを知り驚いていました。さらに、「電車の中で」という教材では、視覚障害の方に席を譲るべきか迷う場面などについて考えました。それぞれの生徒がバスや電車に乗った経験を思い出したり、いろいろな人の立場や事情を多面的に考えたりして様々な意見を出し合い、考えを深めました。

修学旅行当日。おたかの森駅から、通勤ラッシュの電車に乗って東京駅に向かいます。また、新幹線ではおおぐろ中生以外の乗客と同じ車両で広島までの約4時間を過ごしました。いつもと違う環境でしたが、それぞれの生徒が一般の方を意識しながら、けじめのある行動をすることができました。そして、広島の路面電車では、たまたま白杖を持った視覚障害者の方がおおぐろ中生で混雑する車内に乗ってくるという場面がありました。そんな中、生徒達は声を掛け合い、その方が通れるスペースを自然に作っていました。大人でも、どうしようと考えてしまう場面でしたが、生徒たちの行動でほっこりする空間となっていました。

広島では平和学習、京都では日本文化に触れる体験など様々な学びを得ながら、けやきこぶしの生徒たちは、友達と協力しながらしっかり行動することができていました。

また、昨年度のグロースクールの経験もあり、時間や予定を確認しながら行動することや荷物の管理などを、自分の力でスムーズに行えていました。生徒たちの頼もしい姿に、1年の成長の大きさを実感するばかりでした。

生徒達には、是非この修学旅行での経験を、今後もあらゆる場面で生かして行ってほしいと思っています。



### 2. 2年生 グロースクール

6月16日から3日間、グロースクールが行われました。コミュニティプラザでバスに乗り込み、けやきこぶしの生徒たちは元気に出発しました。バス内では各クラスのレク係が準備したバスレクを行いながらいわき伝承みらい館へと向かいました。

いわき伝承みらい館では「震災学習」を中心とし、東日本大震災の際津波の被害にあったいわき市の様子を、伝承員さんにご説明いただきながら、クラスごとに市内の各地をまわりました。津波の被害を受けた神社や港、当時の映像、伝承館ではたくさんの資料を見ながら、生徒は感じたことや感想をしおりにメモし、学習しました。

宿泊地のヴィライナワシロに到着し、夕食後にホテル近くの広場でキャンプファイヤーを行いました。皆で火を囲みながら各クラスで誓いの言葉を発表し、フォークダンスを踊りました。最後にはサプライズで花火があがり、花火を鑑賞しました。絆を深め合える、楽しい時間を過ごすことができました。

その後熱めの温泉に入り、皆でリラックスしました。入浴後の部屋で過ごす時間はのんびりすることができ、カードゲームで盛り上がる部屋やテレビを見ている部屋、ホテル内の売店でおみやげを真剣に選んでいる姿が印象

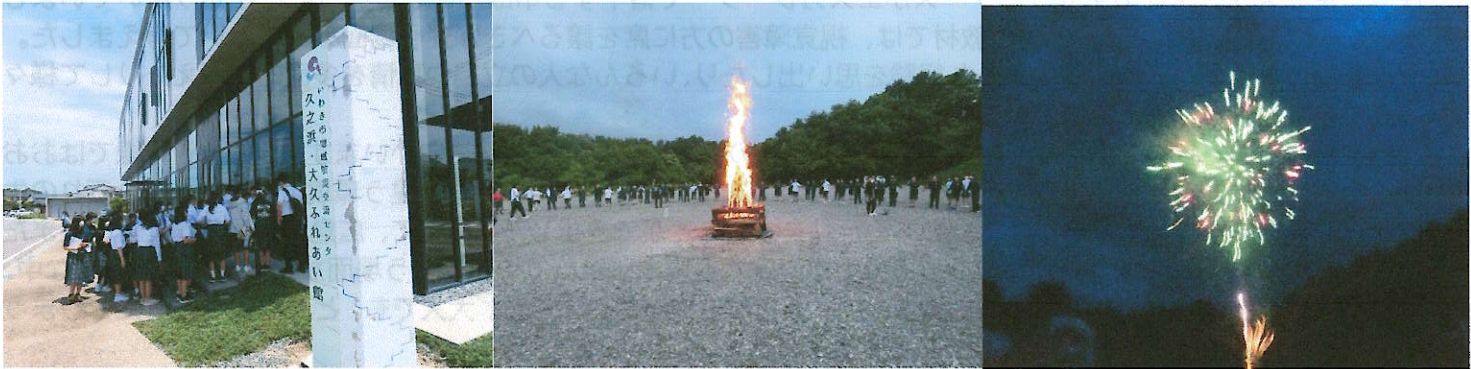
的でした。

2日目は農村体験をしました。会津若松、喜多方市周辺で受け入れていただき、けやき・こぶし学級生徒は、林業や野菜・果物の収穫・洗浄、畑を耕し、種まきや苗植えを体験しました。

当日の天気は快晴で、標高300m程に位置するため、風は程よい涼しさで、たくさんの生き物や植物を見つけ、楽しみました。

3日目は飯盛山、武家屋敷、七日町通り、鶴ヶ城周辺の班別行動を行いました。バス内でバスガイドさんの説明や、事前学習を行い臨んだ班別行動では、当時の福島を実際に見て学ぶことができました。

3日間の中で、皆の良い所をたくさん見ることができました。特に生活の部分では、しおりを熟読していたので、先生に質問に来ることは一切ありませんでした。部屋での生活の様子も自分で荷物を整え、時間を見ながら行動することができていました。交流学級の生徒とも一緒に遊んだり会話をしたり、お互いの良いところを発見することができたようです。グロースクールのスローガンにもあるように、自分で考え、絆を深めることのできる3日間になりました。ご家庭でも荷物の準備やしおりを一緒に読んでいただいた結果、充実した活動を行うことができました。ありがとうございました。



### 3. 夏休み

夏休みは様々なことにチャレンジできるチャンスです。生徒たちにとって、充実した時間になることを願っています。また、夏休みをどのように過ごしていくのか考え、準備を行っていく予定です。

#### ①元気に日々を過ごしていくために・・・

何事にも健康であること、元気いっぱい日々を過ごせることが一番です。毎日しっかり睡眠時間をとり、ごはんを食べるなど規則正しい生活を過ごせるように声掛けをお願いします。

#### ②中学生の夏休みの過ごし方

##### 【勉強】

おぐろの森中は、学校から出る宿題はありません。そのため、自分の学習したい内容に時間を充てるチャンスです。  
(学習の例)

- ・1年生はとにかく苦手を克服する
- ・2年生は中学校1年生の復習をする
- ・3年生はとにかく基本問題を習得しよう
- ・自由研究や作文、ポスターなどのコンクール課題に取り組む

##### 【色々なことにチャレンジ】

- ・将来のことを考える
- ・やりたいことに打ち込む
- ・部活に一生懸命になる
- ・家族との時間を大切にする
- ・友人とかけがえのない時間を過ごす

##### 【お手伝い】

整理整頓・洗濯・料理・買い物等、生徒たちが家でできる役割はたくさんあります。是非、日常的に家事の経験をして、社会に出た時に自分のことが自分でできる力をつけていきたいと思っています。ご家庭での声掛け等、よろしくお願いいたします。

#### 4. 進路について

生徒は中学生になると心身ともに成長していきます。その後の将来の夢や生き方を考えていく過程の中で、中学3年生に進路決定があります。どうすればよいかと不安になることもあると思います。今後子供と一緒にどのように関わっていけばよいのか、ご家庭と一緒に考えていければと思います。

##### ○将来の夢や生き方を考える進路学習

学習を通して生徒には望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けていきます。また、職業的自立を目指し、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を身に付けていくことを目指しています。

中学校では、夢や希望の実現に向けて、生徒が自らの生き方について考え、将来の進路設計ができるように進路の学習を進めています。

1年生	2年生	3年生
進路学習のスタート ・夢や希望について考える ・働く意義を考える ・自分を知る	卒業後の進路計画 ・働くことと学ぶことや、職業について知る。 ・学ぶ機会について知る。 ・自分の個性を知る。	進路の決定 ・将来への具体的な希望を持つ ・上級学校や事業所などを調べる。 ・進路決定先までの手順を知る。

##### ○進路の選択はどのようにしたらよいか？



進路選択・進路決定は夢・希望、能力・適性(特性)、興味・関心等を総合的に判断してなされることがのぞましいです。現在、そして将来のために、生徒が「生きる力」を身に付けるために「行きたい学校・行きたい職場」の選択が大切になります。

##### ○中学1・2年の段階で将来の進路について考えるのは早いのではないか？

将来の夢の実現に向かって、自分で人生設計を考えることに、意義があります。自分の将来について考えられる機会を学校で設定し、生徒が主体的に将来のことを考え、調べ、体験していく中で、将来の生き方や職業までを展望することで、人生設計を立てていくことが大切となります。

##### ○ 生徒が今後行っていく3つのこと

- その1 自分をよく知ろう(自分を知る)
- その2 自分に合った進路を検討しよう
- その3 進路希望先を調べよう(自分で決める)

##### 【その1 自分をよく知ろう】

自分をよく知ることが、進路を考えるうえで、大切な最初の一步になります。自分の興味、特技、趣味、適正などさまざまな視点から自分を見つめ直し、自分のことについてよく考えてみると良いと思います。まずは、生徒自身が「私の強みは何？」とか、「弱いところは何？」といった具合に自分のことを家族や周りの人に聞いてみると自分では思いもよらない話が聞けるかもしれません。そうすることで、自分を深く理解でき、客観的な自分の適性を知るきっかけになると思います。

##### 【その2 自分の合った進路を検討しよう】

進路先には、高等学校、専修学校、就職などがあり、高等学校は、普通科だけではなく、専門学科や総合学科、通信制など様々なものがあります。「知らなかった。」ということがないように、事前に調べておくことで、選択肢が広がり、後悔しない進路選択につながっていきます。

### 【その3 進路希望先を調べよう】

パンフレットや在校案内を活用すると良いです。また、興味のある学校などをホームページで調べると、学校の特色や学校の雰囲気、授業スタイルなど様々な様子がわかります。今後、文化祭や体育祭などを見学したり、説明会、体験入学などに参加したりして、自分の目で、確かめることも大切になります。

#### ○生徒の将来の夢や希望をかなえるために、教員と家庭で考えていきたいこと

中学生は心理学の上では青年期前期にあたり、心身の成長・変化は生涯で最も著しい時期になります。そのため、私たちは生徒の発達に応じて支援していく必要があります。次のような点を心がけていきたいと考えています。

特性を理解する	どうしても私たちは物事を現実的に考えてしまいがちですが、子供は自己の可能性に夢を持っています。子供の特性を理解し、夢と現実のバランスに配慮しながら接し、励ましていくことで意欲が育つと考えています。
多くの「ものさし」をもつ	個性が開花し始める時期です。「学習の成績」で進路を考えることも必要ですが、様々な「ものさし」をあてることにより、それぞれの個性にふさわしい進路が見えてきます。
私たちの体験を語る	働くことの楽しさや喜び、世の中に貢献することの意義や生きがいなどについて、私たちの体験を語り、子供と一緒に考えていきたいと思っています。将来社会人になるための自覚をもつきっかけになると良いと考えています。

今後も生徒が自分の個性や長所を伸ばしていけるよう、あたたかく見守っていきたいと思います。「どうせ自分なんて」と自己を否定的にとらえる傾向にある時期です。その子なりの長所を認め、自信を持てるような関わりをしていくことが大切になります。自信を持つことで、本来持っている個性や長所を伸ばす大きな原動力になると思いますので、大いに励まし、支援していきたいと思います。